

有機地球化学

懇談会(仮称)について

安藤 直行

有機地球化学に関する仕事をされている方の中には最近 田口一雄(東北大 岩鉱) 半田暢彦(名大 水研)の両世話人連名の「有機地球化学懇談会(仮称)」への勧誘の文書を受取られた方がおいでになる事と思います。この「懇談会」は広く全国の有機地球化学にたずさわる方々に集まって頂き これまで横の連絡のほとんどなかったこの分野の人達の連絡をとり 情報交換などを通じて 一層この研究の進歩に役立てようというものです。たまたま「懇談会」の発足について若干お手伝いをさせて頂いた関係で 本ニュースの読者の皆さんにもこの動きをお伝えしておきたいという事と もし何かの手違いで今回の勧誘から洩れてしまった方々で この会に参加しても良いとお考えの方が 一人でも二人でも増えはしないかという希望もあり 報告しておきたいと思えます。

まず上記のような勧誘を発するに至った経過を簡単に要約して見ます。昨年9月 宮城教育大で行なわれた日本地球化学会の討論会の際に 同討論会に参加した有志(名大 東北大 北大 都立大 地調からの約10名)が非公式の集会を持ち これまでほとんど横の連絡のなかった有機地球化学の研究者相互の連絡を密にし ひいてはこの分野での研究発展のために どのようなことが現在できるかを話し合ったのが いわば今度の懇談会の予備的な会合の第1回となった訳です。

その席上翌昭和48年の日本地質学会年会の際に このことに関する夜間小集会を持つことを申し合わせました。そして本年4月5日 地質学会年会の夜間小集会が東北大学の岩鉱教室で行なわれました。これが第2回の集まりといえましょう。この夜間小集会には20名余りの参会者を得たのですが 参会者の自己紹介と 当日参加されなかった人達で 有機地球化学の分野で仕事を進められている方々のテーマとか 仕事の内容とかを 参加者めいめいの知っている範囲内で 紹介しました。

この集会で 今後どのようなことをやって行くか 進め方のやや具体的な事柄が討議されました。そして地

質学とか地球化学とかいった学問分野に余りとらわれず 幅広く呼び掛けて 小規模であっても学際的な集まりにまとめて行くのが良からうということになり 今度の呼び掛けとなった訳です。そして 差し当り本文の始めに出た二人の方に世話人をお願いすることになりました。

更に 今秋10月に秋田で行なわれる地球化学討論会の際に 夜間集会の形で「有機地球化学懇談会」としての第1回の会合を持つこと そして今後できれば地球化学討論会と地質学会年会の中で 懇談会としての集まりを持つこと 少なくとも年1回は懇談会を開催したいということに意見が一致しました。そして 近い将来 文部省科学研究費の総合研究の申請ができる所まで行きたいというのが全員の希望でした。

以上のような経過をたどって今度の勧誘状の発送となった訳です。そして 昭和48年10月1日に懇談会の第1回の会合が秋田大学で行なわれることに決まりました。この日は 地球化学討論会の課題討論の一つである「有機性鉱床の地球化学」が行なわれる日でもあり 恐らくかなり多くの方々に集まって頂けるものと思われまふ。先きに述べた「懇談会へのお誘い」に既に応えられた方はもちろんのこと 手違いから連絡洩れとなってしまう方で 有機地球化学に関心を持たれる方は是非この集会に参加して頂きたいと思えます。

なお 当日どうしても都合で集会には参加できないが集会の様子を知りたい あるいは今後いろいろな連絡を受けたいとお考えの方は 下記の連絡先にご連絡の上懇談会のメンバーとなって頂きたいと思えます。また 有機地球化学に関する情報(国内 国外を問わず どんな種類のものでも)をお持ちの方も 10月1日の会合の席上直接お伝え頂どうか 世話人の所へ御連絡頂きたいと思えます。

一口に有機地球化学といってもその間口ははなはだ広く 全てのメンバーを包括するテーマで活動することはあるいはかなり困難かも知れませんが みんなでいろいろ智恵を出し合って 有意義な活動を進めていければと思います。そのためには何といっても一人でも多くの人に参加して頂き お互いに連絡を密にする所から始めて行かなくてはいけないと思えます。

(筆者は 地球化学課)

○有機地球化学懇談会の連絡先

〒464 名古屋市中種区不老町

名古屋大学理学部水研 半田 暢彦

○同 会 世 話 人

田口 一雄(東北大・理・岩鉱)

半田 暢彦(名大・理・水研)